

## N・チェムバレンの宥和政策と ケインズ「条約の改訂」

### 目次

#### 一、賠償討議

外部意見 内部意見

スパ会議

ロンドン会議

第二回ロンドン会議

#### 二、ドイツの賠償支払能力

独貿易輸出額

ウイズバーデン協定

戦害賠償勘定

石炭支払い

#### 三、ベルサイユ条約の問題点

年金、別居手当の非合法性

賠償、戦時借款と貿易

上部シレジア

ライン河東部占領の非合法性

#### 四、条約の改訂

自力回復

仏英米三国

白伊塊ポーランド

賠償、戦時借款の抹殺

#### 五、むすび

北島 平一郎

一、賠償討議

外部意見内部意見

ケインズ (John Maynard Keynes) はベルサイユ平和条約 (以下「条約」と呼ぶ) の締結にすこぶる批判的であり、その為の論評を先の「講和の経済的結果」(The Economic Consequences of the Peace) において行ったが、その後の同問題に関する展開、新知識、ケインズ批判また反批判等を一九二二年一月、一本にまとめた。これが「条約の改訂―講和の経済的結果続篇」(A Revision of the Treaty, being a sequel to the Economic Consequences of the Peace) である。本書は一、世論の状態、二、ベルサイユ条約の批准から第二ロンドン最後通告まで、三、ロンドン解決の負担、四、賠償明細書、五、年金要求の合法問題、六、賠償、連合国間借款、国際貿易、七、条約の改訂と欧州の安定、の七章から成っている。そして資料として、スパ協定以下一〇篇を附している。問題の重大な複雑化に対し、ケインズは序文で、こうのべている。『……「この森の大きな利点は」とバンジーの松林の中でクレマンソウ氏 (M. Clemenceau) は言う。「ここではロイド・ジョージ (Lloyd George) やウィルソン大統領 (President Wilson) に会う一片

のチャンスもない。リス以外全く静寂だ。」ひとつこの書物もこれにあやからして欲しいものだ』と……………。

小論の目的は、ケインズがこの書物においても根強いベルサイユ体制批判、ドイツ擁護論を展開しているが、これをややくわしくあとづけたいこととそれが、一九三七年以降の N・チュムバレンの宥和政策の一つの背景を形成していたということに筆者なりに論証してみたいということにある。

この書物はケインズの「講和の経済的結果に対する諸々の批判に 대응することを動機として書かれたものである。すなわち一九二二年夏と秋のハルコート (A. Harcourt) とブレース (Donald Brace) との論争が、特にその具体的動機である。ケインズは序文の終りで、前著から二年間の出来事を叙述し、現在の事実を陳述し、どうするかを提案するのがこの書物での仕事だ、とのべている。まず興味あるのは、ベルサイユ条約に対する態度が前著よりも理解的になっていることである。それは条約は暴民の要求と主演者の人格が融合して出来た最上の時宜的解決だと言っていることである。ロイド・ジョージは条約は賢明でなく、欧州の危険だと理解していたが、大衆の情熱と無知への考慮でこの解決を導き、以来二年間は情勢緩和の為努力した、とのべている。前著のウィルソン、クレマンソウ、ロイド・ジ

ヨージへの攻撃と比べると大きな変化であると言わねばならない。

彼は言う、民主主義はだまされ、おだてられる。しかし公衆は真実を経験で知る。私人は政治家と違い、真実を公益の爲にかくしたりせず、自由に話し、書く。ここから輿論が生れる。

ケインズはだから彼が「講和の経済的結果」を字義解釈し、その実行の結果を考究したことは間違っていたとは思っていない、そしてベルサイユ条約は不可能だから無害だと言う説には賛成出来ない、のべている。

ケインズは輿論を三段階に分ける。外部意見 (outside opinion)、声なき声 (unspoken sensibilities)、内部意見 (inside opinion) である。外部意見は新聞や政治家によって表出される公衆の意見。声なき声は、この輿論を形成しながらその真实性をつねに疑っている民の声。内部意見は政治家、ジャーナリスト、そして官吏 (文民、civil servants) の意見である。外部意見は、非合理、非知性の面が強く、子供が火にさわったがったり、玩具をこわすのにさえたえられる。内部意見はケインズの条約に対する結論の多くを認める。戦時中は、内外意見は異なるほどよいとされた。しかしそれは今や一つにならねばならない。政治家は公衆を無視出来ない。公衆は真実を生命よりも

知りがっている。内部意見は声なき声に影響し、外部意見に浸透してゆかねばならない。英国人は一九一九年にドイツ賠償を信じなかった。今はそれを考えるようになっていく。これは知性的でない。静かな生活、義務の軽減、隣人との愉快な共存、これが公衆の望みである。ベルサイユ条約の賠償条項を強行して破滅を引きす必然性はない。ケインズはこのべ、その治癒の爲の処方箋を提出したいと言っているのであった。

#### スパ会議

この書物でケインズは一九二〇年以來のドイツ賠償問題連合国間会議を一々叙述する。まず一九二〇年四月一日—二六日のサンレモ会議、ここでは伊首相ニッチ (Signor Nitto) が条約改訂派、仏首相ミラン (M. Millerand) が改訂反対派、ロイド・ジョージが中間派と確認された。五月にハイゼ会議が非公式で開かれ、賠償支払いのスライド制が検討された。次いでブローニユ会議、一九二〇年六月二日、ここではじめて三五年間毎年三〇億金マルク (一億五千万磅) の独賠償支払いという数字が示された。七月二日—三日、ブラッセル会議、ドイツ専門家団が出席し、政治的にフランスで可能なプランは、経済的にドイツで不可能だと訴えた。問題はドイツを制裁で屈服さすか、条約改訂で慰撫するかである。七月五日、待望のスパ会

議、しかし石炭配送以外賠償決定は何らなかった。二月一日・二日、ドイツ人も含むブラッセル専門家会議、會議の決定、(1)一九二一年から二六年まで五年間、独賠償支払いを平均毎年一億五千万磅(金)とする、最初の二年間はすくなく、後の二年間は多くする、(2)これは現金ではなく、現物支払い、(3)占領軍費用はこの中でまかない、限度は年額一千二百万磅(金)、(4)新船建造義務とある数量の船舶引渡し義務は、免除、(5)賠償不支払いは、独関税収入差押えを課する。これらの決定はしかしブローニュ會議の提案共々るつばに入れられてしまう。次いで一九二一年一月末日にパリ會議、ドイツ賠償を確定、不確定部分に分ける。前者は年額(金)支払い。最初二年間一億磅、次いで三年間ずつ三期支払い、第一期一億五千万磅、第二期二億磅、第三期二億五千万磅。そして以後三一年間三億磅。後者はドイツ輸出額の一二%。確定支払い総額は、一一三億磅でブローニュ決定より少額だが、不確定支払い額を計算するとこれは膨大な額となる。これらの要求は結局、年額支払い四億磅以上ともなる。

#### ロンドン會議

パリ決定に対しドイツ代表はロンドンに赴いた(一九二二年三月一日・七日)。彼等はこの詐欺(jugeling)をやえ用いて

賠償減額をはかった。パリの総額一一三億磅。この現在価値は、利子八%として、二五億磅。一〇億磅は既払い分として差引き一五億磅。これがドイツ支払いの最高限。連合国が四億磅の國際借款を調達出来れば、利子と減債基金五千万磅が五年間付加される。差引き総額一一億磅。この償却レートは五年目の終りに再び考慮する。全提案は、ただし、上部シレジアの保留と獨貿易への全障害除却を条件とする。連合国は、当然この提案に怒り、ドイツがパリ決定をのむか、それに相應する新提案をなさぬ限り、(1)デュイスブルグ、ルーロート、デュッセルドルフを占領する、(2)連合国のドイツ輸入への支払いに課税、(3)独占領、非占領地間関税障壁の設定、(4)占領地関税の差押えを實行するとした。しかし三月六日、対独非公式提案がなされた。独支払い三〇年間年額一億五千万磅。輸出割当て(propor-tion)三〇%。そして翌日から正式会談が再開された。ドイツはなお上部シレジア保留、國際借款獲得等を主張し、仏のフォッシュ元帥(Marshal Foch)は怒り、遂に三月八日午前七時、彼の軍隊に進発命令を発した。こうしてデュイスブルグ以下三都市の占領が實行された。しかしケインズは制裁は非法法であり、特に賠償委員会が五月一日に独不払いを宣告するまでそうである、ドイツ製品の価値の一部でも差押えることは、英仏政

府の平和約定に反する、ラインランド関税障壁の設定は、条約二七〇条のもとで住民の経済的利益の為にのみ許容される、連合国は、ドイツに叩頭さす為ラインランドを永久にドイツから切り離すぞという脅迫の為に三都市占領を行ったのだ、これらはすべてベルサイユ条約の条項に違反した実行である、と言っている。

## 第二回ロンドン会議

この間世間の賠償取得熱は上がる一方であった。三月七日には群衆がランカスター・ハウスの前に陣取り、フォッシュ元帥やロイド・ジョージをみると拍手を送った。「ジョージ、彼奴等に払わせろ！」彼等は叫んだ。

嵐の二カ月の後、ドイツの新提案がサイモンズ博士 (Dr. Simons) から提出された。(1)ドイツ責任額を二五億磅(金)に固定する。(2)この額の出来るだけ多くを国際借款で調達する、その総収入の取扱いは、連合国にまかす、利子と減債基金は、ドイツがまかなう。(3)借款外金額の利子は、独支払いで最高四％。(4)差引額減債基金は、ドイツ復興の程度にかかる。(5)その他ドイツは、荒廃地の再建を連合国の希望に依拠して引受ける。現物賠償を商業ベースで実行する。(6)ドイツは、一〇億金マルク(五千万磅)を次の方式で即刻支払う。最初金、銀、

外国証券で一億五千万金マルク、国庫証券で八億五千万金マルク、後者は、三カ月以内に外国証券で買戻す。(7)双方合意あれば、ドイツが連合国対米借款を力量の範囲で肩代りする。(8)誠意の証としてドイツは直ちに五千万磅支払う。

この第二回サイモンズ提案はそれまでになされた提案よりも五割方はよいものであった。しかしこの時仲介に入っていた米国は、これを実現不可能とみて該案を連合国に伝達しなかった。ケインズは、だがこれをドイツのなし得る賠償支払いの最大限と判定している。一九二一年三月二〇日には、上部シレジアの人民投票が実行された。シレジアの大部分、特に産業地域の大きな部分がドイツに帰属することとなった。(しかしこれは、後にフランスと連盟の介入でくつがえされる。)一九二一年四月二七日には賠償委員会は、賠償総額を一、三二〇億金マルク(六六億磅)と決定した。これについては連合国大蔵大臣は三、〇〇〇億金マルク、責任ある筋は、一、六〇〇―二、〇〇〇億金マルク、巷間の噂は一、三七〇億金マルク等としていたものであった。

こういつた雰囲気のもとで、第二回ロンドン会議が開かれ(一九二一年四月二九日―五月五日)、次の内容の決定が出た。(1)証券の発行、(2)連合国保証委員会の設立、(3)現金、現物支払

料  
いの取決め。

(1) 証券の発行 (The delivery of bonds)      ドイツが賠償

資

委員会へ支払う責任の範囲内で、また将来の賠償支払いを担保として賠償額の主要部分を証券を発行流通させることによって民間投資家に肩代りさせる。まずA証券一二〇億金マルク（六億磅（金））の発行、一九二二年五月一日から賠償委員会に向けて行ふ。B証券三八〇億金マルク（一九億磅（金））、一九二一年一月一日から。C証券八二〇億金マルク（四一億磅（金））、ただしこのC証券発行はAB証券の発行流通が満足に行われた場合にそれを見て発行される。それぞれ証券は利子五%、蓄積的減債基金一%、従ってA証券の支払能力の範囲であるとケインズは言う。B証券は年額一億一千四百万磅（金）、AB合計一億五千万磅（金）となる。ケインズはこの額は實際的でないと考え、そうだとする有力意見もあると彼は言っている。AB証券額面価格合計は二五億磅（金）となり、ドイツ提案の賠償総額と一致する。そしてケインズはここでC証券は、遅かれ早かれ単に延期されるだけではなく廃棄されるだろうと言っている。ケインズは第二回ロンドン会議をパリ決議等に比し良好な裁定と評価するが、証券の発行については實際上処理不能と断定し

七八

ている。彼は言う、連合国は証券発行で独賠償取立てを他に肩代り出来、もしドイツが支払いを完済すればこれによって人々を利することが出来る、また彼等の予算の欲する現金をこれによって入手出来るとする、希望は大きいがそれは一つの幻想にすぎない、例えばフランスがニューヨーク市場で借款を起す場合コストは一〇%かかる、ドイツ証券は利子五%、減債基金一%であるから、償還を含めて一〇%かせぐ前にドイツ証券の価格を五七にまで下げねばならないだろう。こうしてドイツ証券を額面価格の半値以上で取引することはまず望めない。なお、すべてはドイツの支払える能力にかかっていることで、ドイツ証券発行の連合国に及ぼす財政的効果は、彼等自身が同等のレートで借金するのと変るところはない。

第二回ロンドン会議決定の独支払い方法は右の如くであったけれど、この会議はまたドイツ賠償支払いを最後通牒をもって督促するものであった。

該最後通牒は、連合国の独賠償への度々の譲歩、スパ、パリ等における警告にもかかわらずドイツは依然、①軍縮、②一九二一年五月一日期限の支払い、③戦犯裁判等を実行せず、またしようとしなない。そこで連合国は以下のことを決定し、これをドイツに提示する、④ドイツが以下の項目を実行しない場合、ル

ール溪谷を占領し、かつそれを継続する。⑤賠償委員会をしてドイツ義務の完済時と方法をドイツ政府におそくとも五月六日までに通達(Prescribe)させる。⑥(1)ドイツ政府に右賠償委員会の決定の実行を受領以後六日以内に宣言させる。(2)陸海空の軍縮を遂行させる。なおこれら決定はベルサイユ条約二三一条、二三二条、二三三条、二六四条、二六七条、二六九条、二七三条、三二一条、三二二条、三二七条等一〇カ条に依拠する。この第二回ロンドン会議の内容を最後通牒も含めてケインズは称揚している。またルール占領条項は脅迫だが、これもブリアン(M. Briand)の立場を強める為にすぎないとし、次のように指摘する、(一)会議決定が賠償問題を「条約」の賠償条項に基礎づけ直した。新提案はその合法的発展である。(二)決定は「条約」の重荷に何物もつけ加えず、また将来に向ってそれを軽減させた。(三)一九二一年五月一日期限の独賠償支払い(一〇億磅(金))を帳消しにした。

かくケインズがここで賠償問題がベルサイユ条約にかえらされたことを安堵をもって眺めていることは、「講和の経済的結果」が激しい条約批判からはじまっていることを思えば矛盾である。しかしケインズの真意はドイツ経済の復活であり、欧州経済、ひいては世界経済の復興を大きく促進することにあつたから

彼にとって悪いものがより悪くならないことに確定したのをほめるのは自然の論法であつた。彼は言う「条約がどれだけ悪かろうと、ロンドン体制はそれ以上に悪い政策―優越力を単に所与するだけで行ふ無法の行為―から逃れる道を提供したのだ」(二六頁)と。しかしまたケインズは次のように言う、ドイツ国民に彼等が信じていないもの、あるいは真実でないと思つてゐるものを異端審問官のように、また果ては銃剣の先で、自分たちがそれを信じているという理由だけで信じさせようとするのは文明国のやることではない、と。

## (2) 保証委員会

賠償委員会の補助機関としてベルリンに設置。この機関は、独賠償支払い担保として、①ドイツ関税収入、②独輸出総額の二六%、③他の税金等を寄託される。問題は、これらの受領が主にマルク紙幣でなされるのを外国通貨に兌換することである。もしこれを行うとすれば委員会が独外国為替政策に自ら責任を持つことになるし、これを行わなければ、外国通貨での支払いをきめた他の条文に保証委員会は何らの保証を与えられないことになる。ケインズはこういつて保証委員会を鋭く批判する。さらに彼は保証委員会もブリアンへの非難をそらす為に有効に使用されるとのべる、第二回ロンドン会議はドイツの関税を確保したじゃないかとブリアンは叫び、

年月日	算定	単位：10億 金マルク
1918	カンリフ卿 (Lord Cunliffe) 英国総選挙時	28.8
1919.9.3	仏議会、クロツ (M. Klotz)	18
1921.4	賠償委員会	8.28
1921.5	ロンドン会議	4.6

そしてそれには何らの返答はかえってこないのだ、と。

### (3) 現金並びに現物支払い条項

ドイツの年支払いをケインズは次のように査定する、(1)二〇億金マルク。(2)独輸出価値の二六%、もしくは合意による他の条項による同額。(1)は一、四、七、一〇月、(2)は二、五、八、十一月、各一日払い。これによりドイツ賠償新負担は、「条約」規定の半分以上とはならない。「条約」では賠償総額一、三八〇億金マルク。利子五%、減債基金一%で年払い八二億八千万金マルク。こうなると独輸出を二四〇億金マルクという不可能数字まで上げねばならなかったのである。これが消去されたがなお、未支払い利子が複利計算で積み上げられる破滅的条項もなくなった。<sup>(3)</sup>

C証券についてはドイツよりの受領分がその操作に充分となるまで利子を支払わなくともよいこととなった。利子は単利となった。ケインズは独年払い表をかかげロンドン解決の合理性をさらに次の如く強調する。平和会議時の

最低要求額は一〇八億金マルクであった。これは四六億金マルクの二倍半ともなる。また支払い初年度は満期が四回の代りに二回のみとされた等。

### 二、ドイツの賠償支払能力

#### 独貿易輸出額

表題についてケインズは、これを一九二〇年に五〇億金マルクとして、金価格の低落、ドイツ貿易と国際貿易の回復を勘案して、来るべき二、三年のそれを年六〇億一〇〇億金マルクとする。(2)の輸出二六%は、前者の六〇億金マルクとして約一五億金マルク。(1)の二〇億と合算三五億金マルクとなる。もし輸出が一〇〇億金マルクに上ると右例は合算四五億金マルクとなる。現物がこの賠償には支払いとして勿論含まれるが、それは一二億から一四億金マルクとしてドイツにクレジットされる。この額は④石炭配送の価格と量、⑤戦害地修復に関する独仏間交渉にかかるとされる。石炭は独国内価格で、一噸二〇金マルク、一カ月二〇〇万噸配送で四・八億金マルクのクレジットとなる。ルシエールラテナウ協定 (the Loucheur-Rathenau Agreement) の石炭を含む次の五年間のフランスへの現物賠償価値は、毎年一四億金マルクと査定された。もしフラン



スが四億金マルクを石炭で受取れたら、これは三五兆にもなる独賠償クレジットとなる。この結果現物賠償は一〇億金マルクにも達する。しかし実際は年七億五千万金マルクと見積もるのが穏当だ、とケインズは言うのであった。

ドイツの一九二二年八月三十一日と十一月五日の賠償支払い、外国勘定残高、外国為替に関するマルク紙幣の売却、国際銀行団からの一時貸出金、石炭や他の物資の配送でまかなわれた。一九二二年一月、二月の各一五日の分もこれらと独産業者の外国資産（もしこれが確保出来たら）等で支払われ得る。しかし一九二二年四月、五月、七月、八月の各一五日分支払いはどこおるかも知れぬ。この間にドイツは滞納（default）に陥るだろう。これを救う為には米国にある敵国財産管財人（the Enemy-Property Custodian）の手にあるドイツ資産——一〇億金マルク以上の価値——を賠償に使用しなければならない。そしてケインズは問題を(1)外国貿易収支、(2)税金収入、すなわち予算、(3)国民所得の三つに分け賠償支払財源を考察する。(1)ドイツ貿易は、出超にならなければ当然賠償源とはならない、しかし一九二〇年には独貿易は四億金マルクの入超であった（輸出五〇億、輸入五四億）。一九二一年五月から一〇月まで独輸出は一八億六、四八〇万金マルク、輸入は二四億四、三三〇万金マルクで

あった。この間の賠償金は一四億八、四八〇万金マルクである。入超は毎年一〇億のペースで進む。しかし原料と食糧は輸入に頼らねばならない。もし六〇億の輸出として三五億の余剰価値を生ずる為には輸入を切りつめることは出来ない。輸出が一〇〇億になれば賠償責任は四六億となる。しかしドイツ輸出を振興することは、欧州他国家の貿易をおびやかす、これも大問題なのだ。ケインズは指摘している。(2)予算の問題では、独紙幣マルクの対外価値はどんどん下落するが、対内価値はこれに追いつかない。賠償は金マルクで査定され、収入は当然紙幣マルクで集められる。一九二二年の夏、一金マルクは二〇紙幣マルクであった。一二月には四五・六〇紙幣マルクとなっている。後者の前者比国内購買力は三倍である。しかし一金マルク＝二〇紙幣マルクの計算で考察すると、六〇億輸出の三五億賠償は七〇〇億紙幣マルクとなる。同様に一〇〇億、四五億、九〇〇億紙幣マルクである。一九二一年四月一日から一九二二年三月三十一日予算では、賠償以外に歳出九三五億紙幣マルク、歳入五九〇億紙幣マルクで、現在の賠償要求は全歳入以上となっている。これを果す為には歳出を半分に歳入を二倍にしなければならぬ。ケインズはなおこの賠償予算をどの階級、どの社会部分が負担するかが死活の大問題だとしている。それは社会の目的、

性質に関する相反発する観念の争闘であると言っている。(3) 国民所得、一九一九年から一九二一年にかけての種々の国民一人当り年所得推定計算には、三、九〇〇(単位紙幣マルク)、二、三三三、六、五七〇、四、四五〇等がある。国民総所得は一九一三年を四一〇億金マルクとする(Helfferich's estimate)。ここから領土喪失分一五%差引きで三四八・五億金マルク。一九二〇年の一九一三年比賃銀上昇率、四・五倍から一倍。労働時間一〇時間から八時間へ短縮。利子生活者(rentier)、地主、専門職等の収入同比八倍としてケインズは一九二二年八月の国民総所得を二、七八八億紙幣マルク、一人当り年所得を四、六四七紙幣マルクとしている。ここから彼は後者を四、五〇〇紙幣マルクから六、五〇〇紙幣マルクとみて確定値五、〇〇〇紙幣マルクを得る。マルクの不安定はその下落を結果するが金マルク価値低下は紙幣マルクによる賠償額を押し上げる。真の救済は金価値の下落である(すなわち世界価格における上昇)。賠償責任額に関する税には、独中央地方政府の負担額(burden)が加算されねばならない。ケインズは右例により総賠償年額を七〇〇億紙幣マルクとして一人当り負担額を女子、子供を含めた全人口六千万人で除して一、一七〇紙幣マルクを得、これにこの場合の負担額を一、〇〇〇紙幣マルクを下らぬとし、ここに国民一人

当り税負担を二、一七〇紙幣マルクと算定する。これを先の五、〇〇〇紙幣マルクから引くと四三%がドイツ人収入から消失することとなる。これは英国でいうと一二・五磅(金)から七磅がとり上げられることになり、一日一人六ペンス以下で生活しなければならぬことを意味する(独購買力では九ペンスから一シリングとなるが)。有史以来一体どの政府が収入の半分を税としてめし上げたか<sup>(3)</sup>。ケインズはこの状況にドイツ人の為に慨嘆これ久しうするのであった。

#### ウイズバーデン協定

次いで当該協定となる。一九二一年一〇月六日に仏独両再建相ルシユールとラテナウの間で合意をみた。(1)これにより仏私企業が独私企業から無償でフランス再建の必需物資を調達出来ることとなった。(2)この勘定は後日賠償委員会帳簿に計上される。これによって独賠償支払いが促進されるが、ドイツはロンドン決定でドイツの支払える以上を引き出される(ここでケインズはロンドン決定をこのように言及する、またロンドン決定は一時の休息を与えるだけで永久解決とはならないとも言っている)ので、これ以上の負担を課する協定には入れないという態度である。ケインズは現物賠償について次の如く言う、④現物賠償だと受取った物資をまた売りするようなことになる、運

賃だけでも余分の負担だ、⑤ドイツが経済復興すればそれは物資を欧州に売りさばいて連合国の強力なライバル復活となる、現物賠償はこれを避けられる、⑥連合国の賠償要求額を引き下げることはドイツの貿易競争力をつけさせない為だと言うと人は納得するものだ、と。彼はこうして現物賠償が連合国の対独賠償要求を軽減するのなら賛成であるという口吻であった。

#### 戦害賠償勘定

フランスにおいて、賠償総額につきこれを一、三四〇億フランとか、一、一〇〇億とか、一、二七〇億とか種々言われている。ケインズは、前著よりさらに確かな資料を利用してこれらを誇大だときめつける。

(1) 破壊家屋。全壊四万二千戸（全壊二九万三、七三三、部分破壊二九万六、五〇二から得た数字）、これにつき仏政府の要求額一〇億六〇〇万磅、これを除すると一戸賠償額は二、二七五磅となる。戦前 Lens-Courrières 地方の家屋は一戸二〇〇磅であった。三倍の値上がりとしてもこれは三倍半の高値要求である。しかも破壊家屋は農夫、鉦夫の草葺小屋 (cottage) ばかりであった。これは地代、家賃等の間接破壊を賠償計算に入れた結果、とケインズは言い、これらは認められないとして、同項目の要求は前著判定の二億五千万磅が正當なそれだと主張

している。

(2) 造作、家具。全壊、部分破壊家屋合計五九万戸。当該項目の要求額、七億磅（一一四億一、七〇〇万金マルク）、これを除すると一戸一、一八〇磅の要求。草葺小屋に一千磅の家具を！。

(3) 産業破壊。全賠償要求額一〇億六千万磅、ルシュール氏は炭鉱の再建費に八千万磅を計上。しかし英国の全炭鉱は戦前一億三千万磅の評価のみで生産額は仏戦害地区炭鉱の一五倍であった。要求は過大である（七七頁）。しかも一九二〇年にこれら地方の羊毛産業は戦前就業者の九三・八%を雇傭し、ツルコインでは五七産業のうち五五、ルベイでは四八のうち四六がすでに操業している。全産業単位一一、五〇〇（四分の三は二〇人以下の雇傭数）、炭鉱を除きこれで全賠償要求を除すると一単位八、五〇〇磅の要求となる。これは家具破壊値と共に過大評価の極端さを示すことさえはばかれる数字である。

(4) 耕地。一一県全戦害地六六五万エーカー、うち二七万は破壊地、二〇〇万は戦場、四二〇万は単なる占領地、賠償要求額五億九千万磅、これを除すると全戦害地は一エーカー九〇磅、最初の二項目では同じく二六〇磅の要求となる。これは農業建設物、附属品、家畜、戦時收穫量等の損害を計上する前項目同様、過

大要求である。ケインズのみる妥当額はこれらの二分の一あるいは三分の一であった。ベルギーの戦害と賠償要求については、戦害家屋と公共建造物は休戦時、八万户と一、一〇〇。これは仏主張の四分の一となる。しかもベルギーの戦害は仏国の四分の一以下のはずである。財産、海運、市民、捕虜に対する賠償総額は三四二億五、四〇〇万白フランとなっている。一九一三年のベルギー国全財産は二九五億二、五〇〇万白フランと同大蔵省は発表していた。インフレを勘案してもこれも極端な賠償過大要求である。英国の要求につきケインズはこれを全棒引きにすればよいという意見も持っているが、結局海運中心の賠償要求七億六、七〇〇万磅は過大で、前者判定の五億四千万磅が妥当としている。賠償委員会に提出された要求額は二、二五〇億（単位金マルク）でこの中には九五〇億の戦時年金、手当を含んでいた。委員会の査定は一、三〇〇億であった。英国代表者はこれを一、〇四〇億としていた。査定によると年金等を八〇〇億にすると他の項目は五二〇億となってしまう。ケインズはこれらを叙し、最後の判定として「条約」の嚴格解釈から独総賠償額を一、一〇〇億金マルクと判定している。内訳は、年金七四〇億、人的物的被害三〇〇億、ベルギー戦債六〇億であった。彼は独支払能力は年金等を控除して漸く可能となると言っている。

## 石炭支払い

一九一八年一月一八日から一九二一年四月三〇日までの独対連合国支払い、現金九、九三三万四千（単位すべて金マルク）、船舶二億七、〇三三万一千、石炭四億三、七一六万、染料三、六八二万三千、他品目九億三、七〇四万、不動産、未現金化資産二七億五、四一〇万四千、總合計四五億三、四七九万二千金マルク（二億八、四五〇万磅）。これらが英仏白伊ポーランド等にわたった。

ここで石炭の配送についてみる。平和締結時「条約」は一月三四〇万噸の配送を規定していた。賠償委員会はこれを一五〇万台に下げ、実際は七七万噸が毎月ドイツによって支払われた。スパ会議はこれを二〇〇万噸に上げた。しかしここで独炭坑労働者の為に食糧補助金の要請が出され、結局合計三億六千万金マルクが連合国から彼等にわたされた。以来六カ月、ドイツの出血支払いで一七〇万噸から二三〇万噸の石炭が連合国に支払われた。一九二一年一月にスパ協定は無効となり石炭配送は一五〇万台に落込んだ。英国炭坑ストはあったが、不況で石炭過多の為此の落込みが見逃された。この時点で上部シレジアの分割はケインズが前者で予想した如くなったが、その産出石炭は事実上ポーランドへ六四％、ドイツへ三六％がわたること

となった。そこで独石炭総産出高は一億噸から一億一、五〇〇万噸にのぼることとなったのである。こうして独現物支払高が賠償計算される為まず、(1)この三億六千万金マルクと(2)独占領軍費が別勘定としてこれから差引かれねばならない、(3)の総合計は三〇億(単位すべて金マルク)にのぼり、うち一〇億は米国内に、九億は英国に、一億七、五〇〇万はベルギーに、五〇〇万はイタリアに負うところのものであった。一九二一年五月一日にライン駐留の連合国軍は仏国七万人、英国一万八千人、米国少数であった。賠償委員会は独商船隊の賠償クレジットを七億五、五〇〇万金マルクとしている。これは、総賠償要求を一、三八〇億金マルクとして、利子等六％の八二億八、〇〇〇万金マルクの一カ月分支払いにしか値しない額である。

当該問題のスパでの決定のうちフランス五二％、英国二二％をケインズは四五％、三三％と修正しているのは興味深い。ドイツよりの受領現金、現物引渡し<sup>(1)</sup>のクレジットに関する独賠償引当て順は次の如くスパで決定された。(1)連合国軍占領費、一九二一年五月一日まで、一億五千万磅(金)。(2)対独食糧立替金一、八〇〇万磅(金)。(3)ベルギー先取り一億磅(金)。(4)ベルギー借款決裁三億磅(金)。(5)ベルギーへの連合国よりの借款はドイツが「条約」二二三条で決定するとされていた。右総額五

億七千万磅(金)。この割当て支払いは、フランスへ一億五千万磅(金)、英国へ一億七千万、ベルギーへ一億一千万、米国内へ一億四千万である。

「条約」を批准しなかった米国内は、一九二二年八月二五日対独単独講和を締結した。これにより「条約」の権利、特権、賠償金、諸利益が米国内に帰属することとなった。<sup>(4)</sup>米国内独私人資産総合計は、三億一、四一七万九、四六三弗であった。これを担保とする借款交渉は法的に打切られている。

### 三、ベルサイユ条約の問題点

#### 年金、別居手当の非合法性

一九一八年一月一、二日の最高会議では、賠償問題は休戦条件か、平和条件かがまず争われた。そしてこの要求に関する一節が仏代表クロツ(M. Klotz)によって休戦文書に最後挿入されることとなったが、その主文言が、最初の *revendication* (demand) から *renonciation* (concession) にかわって、それが独代表に手交され署名された(九八頁)。仏代表はこの為裨益を受けたが、この知られざる変更は世紀の謎だとケインズは言っている。

ウィルソン大統領は同一一月五日の覚書で、賠償は仏、白、ル

ーマニア、セルビア、モンテネグロの戦害地回復の爲と規定している。これは結局陸海空による侵害と解釈された。ところがロイド・ジョージのカーキ選挙<sup>(5)</sup>、フランスの要求等によってこの賠償に軍事年金と戦時別居手当がつけ加え要求されるようになった。これは遂に戦費すべてを賠償として要求することとなり、直接、間接の損失、損害のすべてを含むこととなった。戦時税から突然の休戦による財政損失までも一時は賠償の対象と主張された。米国代表を除く各国代表は年金を要求し、ケインズはかえって英国代表が全要求を放棄しなかったことをなげいている。最後、戦士として傷を受け、復員の後社会復帰出来ぬ兵士の損害補償という項目がウィルソンを年金要求に承服させた。この段階で米国代表はなお大統領にせまった。「：依然すべてのロジックは年金に反対です。」「ロジック／ロジック！」と大統領は叫んだ。「ロジックに頓着してはいられない。年金は含める／」ケインズは、元代表としてこの項目の叙述は感情的であるかも知れぬと言ひ、しかし賠償額の三分の二を含む問題に肩をすくめてばかりはいられない、と言っている(一〇四頁)。

#### 賠償、戦時借款と貿易

ドイツの貿易競争力は依然強力であった。石炭、鉄、鋼製品、化学製品、染料、繊維等が主要戦力である。これらを賠償

としてドイツから吸収すれば、欧州の同品目輸出国は、当然打撃を蒙る。しかし現物賠償の問題で、品目を競争品以外のカリウム、砂糖、木材等に転換しても賠償がなくならぬ限り結果は変わらない。原料購入、輸入品支払代金、賠償金等の獲得の爲ドイツはその競争輸出品の輸出を拡大するからである。ドイツが期待以下に輸出品価格を下げて輸出にふみ切った場合は、結果は破滅的となる。この関係は長期になれば変わる。資本や労働が他の方向に吸収され、バランスが利益の方に働く。だが、とケインズは主張する、長期大規模の賠償は不可能だ、連合国が独政府に、独政府が独国民にそれを強制しつづけ得ると考える人は誰もない、貿易を通じての欧州経済混乱を避けるには独賠償を軽減するに如くはない、と。

米合衆国については、ケインズは前著でその第一次大戦後強大となった資産で欧州を救済するよう訴えていたが、欧州の対米戦時借款の返還を米国がせまるに至って論調が変わった。米国は一九一九年から二一年にかけて欧州に借款を行い戦後欧州を救った。欧州の紙幣に投資し、米国は損失を蒙り、その分欧州はうるおった。しかし、借金の返還が継続すると、借入国は新しい借款で利子を支払いつづけねばならなくなる。

そこへ戦時借款の返済を米国がせまると事態は破滅的とな

る。欧州は多く売り、すくなく買おうとする。米国が欧州にプレゼントしないのなら米国は多く買い、すくなく売らなければならぬ。欧州がすくなく買うことが米国にとって致命傷となる。特に米国農業地帯にそうである。今や米国は借款取立てより貿易と投資に利をみるべきである。ドイツの対欧賠償、欧州の対米借款返済が現金ではじまると事態は深刻となる。米国は二〇億ドルの出超をもち、これをどこかへ投資しなければならぬ。世界中の金を集めて天を磨す金の仔牛を鑄上げた時、米国は新ミダス王に変身するのだ。米国の価格を欧州以上に上げないこと、欧州の為替相場を低落させないことが重要である。米国の輸出を促進し、一方で関税をもつて輸入を抑制してはならない。世界貿易は、一つの組織体となっている。その中に各国の農工業の貿易均衡が達成され、それぞれの資本と労働が組込まれている。支払いなしに財貨を移動させれば、この均衡が破壊される。組織の崩壊がある時間をもって進むと、その損害は無償で財貨を得る比ではない。損害は一定産業に集中し、そこからのうめきは全社会を震撼する。

#### 上部シレジア

「条約」につきケインズはなお次の主張をしている。「条約」は一九二〇年一月一〇日に批准された。同二、三月にシュレツ

スウィツヒの人民投票が行われ、北はデンマーク、南部はドイツにわたった。東プロシアは、同様にして七月、ドイツに帰属した。問題は上部シレジアで、(一九二二年三月)一二二万有権者のうち一一八万六千人が投票し、一分の七の七〇万七千票がドイツに、一分の四の四七万九千票がポーランドに投じられた。一、五二二集落のうち八四四が独、六七八がポーランド多数となった。三六都市においては二六万七千票が独、七万票がポーランドに、地方では四四万票が独に、四〇万九千票がポーランドに投じられた。これがフランスに受入れられず、連盟裁定となった。連盟による二分案は、赤ん坊を二つに切れと言ったソロモンの智慧よりロバの耳をもつたソロモンとなってしまう。ウィルソンのドグマは貿易や経済的重要さによる分割を無視し、最初の国際政府の試みが結局ナショナリズムの昂揚を助長した。ケインズはこう言っている。この裁定を批判している。

#### ライン河東部占領の非合法性

フランスは一九二〇年三月から翌年四月にかけ単独決定でフランクフルト、ルーロート、デュッセルドルフ等五都市を占領した。独賠償義務不履行が理由であった。しかしこれは不法であるとケインズは言う。彼は「条約」義務不履行による対独制裁は、(1)賠償委員会による実行、(2)その措置は経済的、財政的

禁止のみ、(3)その他条約義務不履行は連盟規約一七条による、の三条件によるもののみ許容される、としている。賠償義務不履行のあった場合、賠償委員会はこれを関係国に通知し、その措置につき勧告する。それは経済的報復に限る(賠償章附則一七条、一八条)。なお「条約」四二八条―四三〇条によって右の場合、ラインの西再占領が可能となる。これもフランスは、一八条を引いて占領実行のフリーハンドを主張する。しかしそれは諸般の事情から経済的報復に限られると解すべくまた占領の権利も狭く限定されている。しかもこのどの条項からもラインの東占領の可能性は全くない。その他の「条約」義務違反は連盟規約一七条の二国間紛争の範囲に属し、連盟非組成国の組成国取扱問題となる。そして規約一二条―一六条の条約の解釈、国際法の問題、国際義務違反、その賠償問題等の仲裁の適用となる。ケインズは当該問題をこのように総括してラインの東占領は全く不法となると主張している。これはフランスの当時のルール占領脅迫に対する警告でもあった。

#### 四、条約の改訂

##### 自力回復

ケインズは前者発刊以来二年間の「条約」をめぐる欧米状況

をみた如く叙述する。そしてその中から賠償問題を中心として事態の改善と「条約」の改訂を提言するのである。彼によれば、欧州は部分的に非常に回復した。人心、よき収穫、原料の豊富、東欧を除く交通の修復。英米両国は貿易の周期的動揺を蒙るが最悪事態はすぎた。しかし欧州のほとんどの国家で国家財政はアンバランスであり、インフレは続き、外国為替は動揺している。

ケインズは今はチャンスだと言う、二年間大規模な賠償は実行されず対米戦債の利子も支払われなかった。「条約」は国境の改訂と軍縮(敗戦国)を除き実現されていない、ここで「条約」の悪しき面を払拭すれば、欧州は完全に再生出来る。貧困と失望の中から活力ある発展は望めない、逆説的だがフランス革命のバイタリティは当時フランスの富強さからきている。こうしてケインズは、(1)欧州という患者は医者や医薬品はいらぬ、患者の自力回復の環境をつくる必要がある。(2)賠償はこれを先送りしたり、低減したりすることでは効果はない、すべからず全廃すべきである、と主張するのであった。

賠償委員会は一、三八〇億(単位すべて金マルク)を「条約」の賠償要求と計算する。一、三二〇億が年金と損害、六〇億がベルギー借款である。ケインズの計算は、一、一一〇億、七四



○億が年金と手当（別居）、三〇〇億が損害賠償、六〇億がベルギー借款である。本書の第六章の主張に聞いて年金と手当額を消去すると賠償額は三六〇億金マルクとなる。ケインズはこの三六〇億を賠償額の根幹として主張し固執する。この額に利子と減債基金、五割と一割を課することは不可能ではない。しかしこれは、英国をおびやかす独貿易の振興とならねば支払い困難となる。

こうしてケインズは一八〇億金マルクをフランスへ、三〇億金マルクをベルギーに支払うことが、賠償解決の最良政策とする。そして英国取り分のうち一〇億をポーランドとオーストリアの救済に廻す。従って英国は残余の全要求を放棄し、米国もこれにならない、イタリアその他マイナー要求国も自己の借款等と賠償要求を相殺する。ドイツは賠償額を年六割の支払いで三〇年以上かかって完済する。ケインズは当該支払いには現金が最上である、現物もすすめられず、金による支払いは相場の變動に悩まされると言い、賠償支払いとドイツ復興、欧州再生をからめた解決はこれ以外ないと主張するのであった。なお彼は、①連合国軍の独領撤退、②独領侵害の権利は国連にのみ帰属する、③英米両国による戦争行動以外の対仏援助、④ライン河以西の独領非武装化を平和条件として提唱した。このうち英米両

国による対仏援助の約束は実現せず、一九三六年三月七日におけるヒットラーのラインランド進駐、その再武装が第二次大戦勃発への大きな山を構成することとなるが、それを思えば、我々はここにケインズの一九二二年における予想の適確さに一驚を喫せざるを得ない。

### 仏英米三国

フランスはこのケインズ提案を受入れるのが、是か非か。彼はフランスの負う対英米両国借款が帳消しにされるなら大いに有利であると言う。フランスの賠償受領分五二割をもってロンドン解決を基礎とした受取り分は④型で年額一八億五千万金マルク、⑤型で二三億九千万金マルク、その対米借款は三六億三、四〇〇万弗、対英は五、五七〇万磅。これを金マルク換算し、利子五割、減債基金一割とすると年負担額は一四億八千万金マルク。これを⑥型計算とくらべるとフランスは九億一千万金マルク（四、五五〇万磅）の純利獲得となる。そしてケインズの改訂計算ではこれが一〇億八〇〇万金マルクへと増加する。しかもこれはドイツの支払える金員である、とケインズは言うのであった。英国は右例によって二二割、ロンドン解決による年額受取り分は、七億八千万（三、九〇〇万磅（金））——一〇億一千万金マルク（五、〇五〇万磅（金））。ロシアを含めた対欧諸国へ

の借款は一八億磅、利子五%、減債基金一%で年額一億八〇〇万磅。英国はこれらの金額から年額一億五千万磅を帳消しするのだとケインズは言う。今日、英国人なら誰もこうした金員をドイツからまた連合国から強要するより、欧州貿易の均衡を維持し、その繁栄を持続させる方が一層の名誉と権威と富を手中に出来ると考えない人はない。米国は同方式で六五億弗、六%で年額三億九千万弗（七、八〇〇万磅）。しかしケインズはこの金額は米国が放棄しなくても全く回収されそうにない、と言っている。

こうしてケインズはフランスが彼の提案を受入れることを望むが、彼の真意はやはりフランスが賠償問題に深入りせぬことであつた。フランスは自己充足的で、よき人口配分をもち、輝かしい文明の継承者として今や地上に最も安定した、富強な国家を作り得る立場にある。このフランスに対し賠償の提案は、フランスがそれを受容するという唯一の条件でなされるべきである。しかしフランスがシャイロック (Shylock) のようにあくまで肉の一片を要求するなら、その時は法律に語らさねば仕様がなない。フランスはドイツから出来るだけのものをとる、その代りフランスは英米両国にその借款のすべてを支払うべきなのだ。そして彼は言う、フランス人が英米両国とより緊密な関係

にたいたいなら、その上彼等から譲与を得たいのなら次の条件を守るべきだ。徴兵をやめること、近隣諸国がそれを中止している時これを課することが仏青年層に如何なるハンディを負わすことか。陸海軍縮減案に反対しないこと、英国が潜水艦拡張策に出る如何なる隣国とも友好関係に入れぬことを知るべきである。中近東への野心を捨てること、このことはフランス外交にとって手痛い提言であらう。中近東は一八世紀からのフランス野望の地であり、一八五六年クリミア戦争の勝利は忘れ難い記憶であるからである。国際連盟の名におけるシリア、レバノンの仏委任統治はこの伝統に根ざすものであることは言うまでもなかった。ドイツはフランスから挑発しない限り何らおそれるべき国ではない、ドイツが強力と誇りを回復しても西方に野望をのばすまでには長年月かかる、ドイツの将来は東方にある、ドイツはその希望と野心を東方に転回してくる。この判断も恐ろしく正確であつた。ドイツの東方政策 (Drang nach Osten) はベルサイユ平和時から明白であり、ストレーゼマン (G. Stresemann) 外交の中核であつた。第二次世界大戦が独軍のポーランド侵攻をもつてはじまったことを引合に出すまでもない。しかしその予測をここでケインズが喝破した意義の大きさは否定出来ない。ルール占領からロカルノ条約、ミュンヘン協定へ

と向う英国外交がこの予測に導かれたというのも決して過言ではないと言わねばならないからである。

#### 白伊塹ポーランド

対ベルギー賠償については、先の基準により受領分八%、ロンドン解決④型で年額二億八千万金マルク、⑤型で三億六、八〇〇万金マルク。改訂計算で年額一億八千万金マルク、ベルギーは失ったものを確実に回収出来る。先取りについてはフランスと調整すべし。イタリア、提案受諾で得るところすこぶる多い。先の基準で一〇%、ロンドン解決④型で年額三億二、六〇〇万金マルク、⑤型で四億六千万金マルク。しかしイタリアは英米両国に年額一〇億金マルクもの借款を負っているのである。

英国の一〇億金マルクはオーストリアとポーランドの財政救済に廻すこととなる。オーストリア、モーツアルトの国オーストリアをいためようとは世界中の誰も思わない。オーストリアは帝國的野心から開放され、軍隊を持たず、今や欧州の四分の一の地域に商業の資本と芸術を与える立場にある。二年間その運命は激変し、窮境は甚だしい。しかし救済は少額でいい。多額は無償を作る (a lifelong beggar)。同国の外国借款と無根拠な賠償要求を取消し、英国の対独賠償要求のうち三億金マルクのクレジットを五年余にわたってベルリンで開く。それで充

分である。

ポーランド。ここに来てケインズが「実行不能なテーマにつき実際的であるのはやさしくない」(一二三頁)、と言っているのは、「言うのは理論家、実行するのは各国大蔵大臣」(一二七頁)と言っているのと照応する如くである。ポーランドの主要問題は時間と近隣諸国の回復のみが解決する。ここでは通貨再編の問題とドイツとの復交の問題に限られる。右述の英国の七億金マルクをこれにあてる。利息は年々自由に使用され得るが、元本は英米両国の同意条件のもとでの前者再編にのみ使われる。

#### 賠償、戦時借款の抹殺

ケインズは総体として戦争の後遺症を払拭することを頭に描いている。すなわち賠償、戦時借款等を種々論じているが、結局はこれを帳消しにし、一国による他国経済の抑圧を廃し、自由な経済を追求する。英国についても、一応それが賠償、借款返済等を受ける、または受けるようにみられる項目を考慮する。

すなわちロンドン解決のC証券、これは前述の如くA、Bに次ぐ三番目の優先権を持つ、当然名目価値はあるが、実際上は無価値なものと言っている、ドイツ関税のシェアを得る代りに英国輸出品の無関税を求める、ドイツ産業の部分的統轄、ロシアの将来的開発の為の独組織のサービスを得ること等。これらの

プランは魅力的で早急に捨てられない。しかし真の智慧とは背馳する。

米合衆国に対しては、ケインズの考えは大きくゆれる。「前著」においては彼の米国に対する依頼は大きい。ドイツ、ソ連、フランス、バルカン諸国等の戦害を回復し、経済を復興し、民主主義を確立する、この為に米国の資力が利用されねばならない。米国は戦害比較的軽い。人口、収入、富、財政能力は国家中群を抜いている。世界復興に米国の富は欠かせない。米国の対欧戦債約二〇億磅はまず帳消しにしてみたい。ケインズは米国に対し右の構想を有していた。しかし同国の一九二〇年三月一九日におけるベルサイユ条約忌避は事態を当然大きく変えた。彼の気持も動揺する。かくして米国に対する論評は、前著と異なり、甚だ失望的となった。しかし彼は米国の論評に二頁半を費やしている。彼が会ったほとんどのアメリカ人は米国の対欧戦債を棒引きすることに反対でなかった。平均的アメリカ人はこういう気持だ。欧州国民がアメリカ人に近づいてこう言う、「我々は自由と生命を貴方に負うている、ここに出るだけのお金を集め感謝と共にもってきました。これは可哀想な農婦や孤児から税金の名でとりあげたものではない、勝利の最高の果実。軍備、軍国主義、帝国、国内争闘を止揚して得

たお金です。」米人は答える、「私は貴方の誠実さに打たれた。これこそ私が期待していたものです。私は利益や投資の為に参戦したのではない。私の労苦は貴方のお言葉で報われました。お金は持って帰って、貧家や不幸な人々を救うのにお使い下さい。」これがアメリカ人の平均的思考か。こんなことは滅多にない、と今や「能」がかりのケインズは言う。アメリカには輿論がある。これが承認しないことを発言すれば、その人は罪人のように非難される。輿論は王さまは立派な着物をきていられると言う。ルソー (Rousseau) の General Will と同様それは不可解な一体だ。しかし輿論は総体で変わる、もしこれが不要なら何を議論してもはじまらない。アメリカの輿論は同情心と経済均衡を維持する観点から欧州に寛大でありたいと思う、しかし時が悪い。税金は抑圧的だし、米国はそれほど富んでいない。それにこれは肩をならべて戦った戦友の貸借というより無担保で金を貸した相手が破産をまぬがれて支払いを拒絶するというケースだ。ケインズはこう言いなお次の如く言い切る。よいのは個人だけだ。国民はすべて悪い、それは卑劣で、残酷で陰險だ。時間は刻々たつ、我々はアメリカの援助に頼れない、必要ならそれなしにやらなければならない。もしアメリカが改訂と再建の会議に参加する気持がないなら、大英帝国が紙上の

要求を放棄する心構えをもつべきだ。アメリカに同様の行為は期待せずに置こう、と。

最後にケインズはこう言う、問題は、ドイツの年払い六、三〇〇万磅(金)は充分かということだ。ケインズはもっと払えるとは思ふ。しかしこの額はフランスの戦害をいやすのに充分である。そしてドイツにも侵害的な負担ではないのだ。ドイツが不正な要求と考えない額が必要である。これがドイツ支払いの最高限だ。我々がドイツの産業能力を知っていたとしてこれを銃剣の先で強要してどうなるのだ。ベルサイユ条約の創立者がみなバルハラ (Valhalla) の神殿に葬られてしまつて後なおこの支払いを続けてどうしようというのか。

ケインズの提案はドイツにも結局は重荷であり、フランスには莫大な富をもたらすのだ。フランスは対外借款を免ぜられ、三〇年間毎年、現在フランス銀行保有金の約半分に相当する価値を受取るのだ。最後フランスの獲得は、普仏戦争賠償金の一〇倍にも達する。英国は真の失当者か。誰も計算出来ず、あとに出来ないもののバランスシートは合計出来ぬ。しかし平和と親善は欧州の為にかちとられる。英国は、それが手中に出来ぬと分明なものを放棄させられるだけだ。もし自らそうしなければ、英国は、そしてまた米國もそうだが、最後国際的大むかつ

きの中でその要求からほり出されてしまふだけなのだ。

## 五、むすび

以上がケインズが本書にのべた内容の概略である。正確には、と、筆者の考えるものである。主張するところは、「前者」とおおよそ異ならない。彼の計算によれば、ドイツ賠償の可能額は一五億磅、三〇〇億金マルクである。彼の非難するものは、デュッセルドルフ以下三都市の占領、ルール占領の脅迫、上部シレジア人民投票結果の変更、年金、別居手当の賠償額算入、破壊家屋、耕地の戦害過大評価と要求等である。賠償委員会の否定もそのままであり、その補助機関として設けられた保証委員会にも反対を表明している。ドイツ人一人年所得を五千紙幣マルクとし、賠償負担の税額を二、一七〇紙幣マルクと計算して、有史以来どんな政府が個人年収の五割も税金にめしあげたかと慨嘆している。

ケインズのベルサイユ条約擁護というような言説も出てくるが、これは賠償の事態がより悪くならないようにということからの主張であった。ただし所謂ロンドン解決を称揚すると共にまた反対に非難するというのは、その解決の側面、側面についてのことと解さざるを得ない。

米合衆国についてのケインズの失望は深いが、結局一九二九年秋まで、世界経済は彼の期待した如くドルの流れの中に浮かび上がる事となるのであった。英国についてはその全賠償要求を放棄することを繰返し慫慂する。フランス、イタリア、ベルギー、ポーランド等にもケインズの主張に聞いて、ドイツ痛めつけをやめるようにとく。しかしフランスはこの後、ルール占領を行い、対独賠償を放棄することに一顧も与えない。英国はルール葛藤にフランスの側にくみせず、ロカルノ条約ではドイツにその東国境の野望に特殊なニュアンスを与えてやる。東欧をドイツに明けわたすことが如何に危険な賭であるかは、しばらく措き、この英国外交の実行がケインズの喝破した、ドイツは西方に野望をのばすのはまだ先の事となる、ドイツは挑発しなければ安全である。それはまずその国力を東に転回するであろうという言説にあわしたものであることが出来る。ケインズのいま一つの主張であるドイツ西国境の保証は、ロカルノ条約の主要部分がこれを果したというのが英国外交の考えであった。英国外交は一九二四年四月のドーズ・プランに英人キンダーズレイ(R.M. Kindersley)を加え、一九三二年七月のローザンヌ会議にマクドナルド(J.R. MacDonald)を派遣して活動する。言ってみれば、これらはケインズの主張の実現であった。ケイ

ンズの指揮に従ってこれらの政策が実現されたのではないと言つても、彼の描いたところと英国外交の実行が乖離していなかった事実は、これらのことから充分結論づけられる。

ドイツと東欧の結合は、緊密であった。当「条約の改訂」出版後、三カ月はどでドイツはラッパロでソ連と結合する。回廊、ダンチヒ、上シレジアの国境改訂要求はすでにワイマール共和国の外交青写真の中に入れられていた。一九三二年三月には、独奥関税同盟が締結され、驚いた常設国際司法裁判所は直ちにこれを否認した。しかしその投票結果は八対七であった。こういった雰囲気の中でロカルノ条約ドイツ東国境処理であるからこれらの帰結がN・チュムバレンのミュンヘン協定になるのは否定し得べからざる現実であった。これらからケインズの「講和の経済的結果」、「条約の改訂」の二著が、英国のベルサイユ条約の非違を是正する、フランスを押えてドイツの復興を促進する、ドイツの東欧問題でドイツを宥和する、という英国外交展開の一つのよりどころであったというのが、筆者がこの二著に対する論評を試みた所以である。この意味でN・チュムバレンの宥和政策にケインズの二著が大きく影響していたと主張したのである。これに対する大方の御叱正を乞いあげたい。

- (1) The Economic Consequences of the Peace, J.M. Keynes, Macmillan, 1971, pp. 17, 41 & 145. 『Z・チェムバレンの宥和政策とケインズ「講和の経済的結果」』(拙稿) 大阪経済法科大学法学論集、第十一号(一九八四・六)(以下「法学論集」として引用) 一一一頁。平和条約の名をあげてそのドイツ収奪ぶりを叙述している。
- (2) The Economic Consequences of the Peace, op. cit., pp. 104-105.
- (3) 日本地主制史研究、古島敏夫編、岩波書店、一九七六年一一一刷、二八八頁—二九六頁。四公六民、五公五民といった言葉もあるが、例えば一例として日本明治一〇年一月の地租改正、地価の百分の三を二・五と改め、反当り収穫米の国家取分は、最高水田三八・六%(山口県)、最低三一・八%(新潟県東半分、ただし土地丈量に厳密を欠く)、国家规定三四%であった。
- (4) Treaties, Conventions, International Acts, Protocols, and Agreements between the United States of America and Other Powers, 1910-1923, Vol. III, Greenwood, reprint 1968, pp. 2596-2600. 一九一七年四月六日、議会の共同決議によってドイツ帝国政府と米合衆国との間に存在すると宣告せられた戦争状態は、集会した議会の上下両院の決議によってその終結が宣言せられた。「友好関係を回復する条約」は、一九二一年七月二日議会の共同決議関連条項をのべる前文、ベルサイユ条約下の合衆国の権利、特権を保証する一条、合衆国が享有する権利、特権を規定する条約の部分、そうでない部分(例えば国際連盟規約)に関する二条、批准に関する三条から成る。
- (5) カキ選挙 Khaki-election, 英国において終戦選挙をかく呼ぶ。この時は一九一八年二月一四日に投票が行われた。保守、自由両党間の連合(Lloyd George-Bonar Law Coalition)を証明する候補者文書の故にクローボン(食糧配給表)選挙とも呼ばれる。カイザーの処刑、全戦争費用のドイツ支払い等が叫ばれた。成年男子選挙権、婦人参政権(三〇歳、年価値五磅以上の土地、屋敷所有)の確立、マクドナルド、スノーデン、ベンダーソンの落選等話題に事欠かない。ケインズの「前者」出版の動機の一つといわれている。Britain, 1918-1940, C.L. Mowat, 1968 reprinted, pp. 2-9. Post-Victorian Britain, L.C.B. Seaman, 1966, pp. 105-107. Contemporary England, W.N. Medlicott, 1967, pp. 117-120.
- (6) 法学論集、第十一号(一九八四・六)『N・チェムバレンの宥和政策とケインズ「講和の経済的結果」』(註4)、なお四二九条は次の内容を有した。(1)ロニーの橋頭堡、ルール河以北の地域、シェーリック・デュレン、オイスキルヘン、ラインバッハの線からシンジヒへの道路の線にそってアール河とライン河の交差点までの線のラインランドから第一期撤兵(五年後)。第二期(一〇年後)、独白和国境交差点の北地域、アーヘンの南四軒から走りゲミュンド、ウルフト渓谷鉄道の東、ブランケンハイム、バルドルフ、ドレイス、ウルメンからモーゼル河に至り、そのブルムからネーレンに達し、カッペルとシンメルンを過ぎることライン河の間の高地の端にそってバカラッハでライン河に達する線内のラインランドとコブレンツの橋頭堡。

一五年後の第三期はマインツとケールの橋頭堡と残存ラインラントからの撤兵。Documents & Reading in the History of Europe since 1918, W.C. Langsam, 1969, p. 33.

- (7) 一七八八年、フランスは人口二千六百万人、英国の千二百万人、プロシア八百万人に比し、最強の国勢を誇っていた。しかし当時戦費四〇億リールを費消し、一七八五年、財政不足は年額一億一千二百萬リールに達していた。短期借款四億リール、一七八八年、国家支出六億三千萬リール、全負債額三億一千萬リール。物価は一七二六年—一七四一年に比し、一七七年—一七八九年に四五%高、一七八五年—一七八九年に六五%高。同期平均賃銀の上昇率は二%のみであった。近代外交史、拙著、昭和五八年第四刷、九頁—一〇頁。ナポレオン戦争のフランスが、これを覆滅しようとした四大国、ロシア、英国、プロシア、オーストリアと拮抗してゐた点でその国力の大きさを認めるのは一般である。Histoire diplomatique de l'Europe par A. Debidour, Tome premier, 1891, pp. VII-VIII. Histoire des Relations internationales par A. Fugier, Tome quatrième, pp. 8-10.

- (8) Hitler, Alan Bullock, first published 1953, Bantam edition 1961, p. 300. 所謂ゴットハール叙述の古典と目されるようになった本書は、ラインランド占領を劃期的出来事とし、それがフランスの防衛体制の蹉跌、その東方同盟の無力化、中東欧の情勢変化、独軍要塞の構築、独軍活動の自由化等をまとめた喝破してゐる。チャーチル (Winston S. Churchill) もドイツの再武装とラインランド再占領が第二次大戦を不可避

としたとのべ、三月七日の報によつてフランスが百師団と空軍(欧州最強)の動員を実行してゐれば、ヒットラーは引込んだと云ふ。Churchill, the Second World War, first published 1948, Cassell edition, Gathering Storm, pp. 166-172. 同じ意見として、勿論シャイラー (W.L. Shirer) も「ランド (J. Toland) を無視する」ことは出来なう。The Rise and Fall of the Third Reich, W.L. Shirer, 1960, pp. 290-300. Adolf Hitler, J. Toland, 1976, pp. 387-392.

- (9) 法学論集、第四号(一九八〇・三) 拙稿、「N・チェムパンの宥和政策とフランス安全保障」一、五頁—六頁。同書、第六号(一九八二・一) 拙稿、「N・チェムパンの宥和政策とドイツ賠償問題」二、二九頁—三〇頁。

- (10) The Economic Consequences of the Peace, op. cit., p. 173 & the followings.

本文中括弧内頁数はタインズ・テキストのそれを示す。